

万博大阪館 100 億円切ったけど…

写真は朝日 22 日朝刊。揺れ動く万博の闇を象徴する問題として、表題の記事を抜粋して紹介する。

2025 年大阪・関西万博で、大阪府や大阪市などが出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」の建設費が 99 億円で事業者と契約されることになった。府市の当初の想定額は 74 億円だったが、資材費の高騰などで事業者から提示されたのは 195 億円。議会などから批判を受け、特徴的な屋根の一部形状なども見直し、コストカットした。21 日にあった大阪府市の会合で報告された。

パビリオンは、万博の会場入り口付近に建設し、開催地・大阪の「顔」となる展示館。特徴は屋根の設計だ。6 月時点では、網の目状の骨組みに透明なガラスをはめる構造で、自然光が差し込み、屋根上に水を流して水中にいるような幻想的な空間を目指していた。吉村知事も「非常にユニークで、個性的で、大阪らしいパビリオン」と自賛していた。

府市などは 5 月から、建設費を 74 億円と想定して事業者の公募を開始。ところが、第一優先交渉権者に選ばれた竹中工務店の提示額は、想定の約 2.6 倍の 195 億円だった。そこで、建物の構造や素材を変更して 115 億円までコストを削減。10 月に差額についての補正予算を府市がそれぞれ議会で成立させた。それでも議会からは一層の費用削減が求められ、万博関係者によると、「100 億円」を一つの目安としてコスト削減を検討。ぎりぎり 99 億円までの減額で同社側と合意できたという。

屋根の設計は大きく変更。上に水を流したり、自然光をとり入れたりする機能は維持しつつ、ガラスは透明な膜状の素材に変え、来場者から見えない部分は網の目状の骨組みは無く、平屋根にする。組み立て方法も溶接からボルトに変えるなどした。このほかにも、建物周辺に設ける水盤の深さや範囲を縮小したり、壁を木材から一部鉄骨にしたりし、照明機器も減らしたという。

11 月 4 日にレポートしたように、大阪館の公募型プロポーザルで竹中工務店だけが審査対象になった。審査で竹中はマイナス 153.57 点にもかかわらず、優先交渉権者に選ばれた。竹中が 195 億円という見積もりを提案したため、実施要領の 74 億円と 121 億円の開きがあり、「価格点」で大幅にマイナスとなった。万博まで時間がないので、竹中に決まったが、プロポーザルの手続きとして間違っていないか。そもそも身を切る改革を標榜しながら、派手な大阪館にこだわる大阪府市、維新などが批判される問題だ。

(2022 年 11 月 24 日)

